

市町村名	対象地区名	集落名	大字	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	御津平岡西地区	御津地域	平岡西	R5.12.13	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	30.4 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	15.6 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	7.5 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.6 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.4 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6.0 ha
(備考) 75歳以上の農業者のうち後継者未定と後継者不明の面積はアンケートより6.0haである。 担い手調査より今後中心経営体が引き受け意向のある耕作面積は6.0haである。	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から高齢者率が高く、65歳以上が全体の81%を占めておりその内75歳以上が全体の46.2%となっている。 ・「農業をやめたい」および「農業を縮小したい」と考えている割合が半数以上で57.7%となっている。 ・多くの方が農地を荒らさずに維持したいと思っているが、年齢が上がるにつれて作業委託や貸借や売買を考えるようになっている。 ・自作をしている人は今後の農地利用について問題意識が高い。農地を貸している人も今後いつまで農地を耕作してもらえるか気にしている。 ・イノシシなどの鳥獣に作物が荒らされる被害が多くなっている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<ul style="list-style-type: none"> ・中心経営体として3人の名前が挙がっている。その内1人は認定新規就農者であるため、サポート体制を整えて地域で育てていく。 ・後継のいない農地については平岡西地区の中心経営体や耕作者で引き受けていく。 ・耕作放棄地が出ないように農業委員会と連携して地主に働きかけていく。 ・農地中間管理機構を通じて農地の貸し借りを推進し、貸借農地の交換による集約を進めていく。
--

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。